

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

完全論述式で一部に記号選択式を含む。すべての設問で考え方や計算の過程、あるいは理由を論述する。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

各大問とも幅広いテーマを含んだ総合・融合問題。基本・標準問題から始まり、後半は難度の高い設問で構成されている。一つの大問内で複数の状況設定を出題されることが多い。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	論述 記号選択 理由説明	力学	物理基礎 物理	円弧状の曲面を含む斜面上での物体の運動。前半はエネルギー保存則、等加速度直線運動、円運動の基本問題。後半は二物体の衝突も扱う。最後のグラフ選択の理由説明は論述がやや難しい。	標準
2	論述 記号選択 理由説明	電磁気学	物理基礎 物理	落下する回路の電磁誘導。前半は回路に接続されている素子が抵抗だけなので難しくない。後半は抵抗の代わりにコンデンサーを接続する。電流や速度の定義式を使えれば完答も狙える。	標準
3	論述	熱力学	物理基礎 物理	ばねつきピストンで仕切られた二つの気体。装置設定はやや複雑であるものの、片方の気体が等温変化であることに注目する。後半は解答で使用できる文字と複雑な状況変化に細心の注意が必要になる。問題文の読解力が特に要求される。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

長い問題文、複雑な装置設定、大問終盤の思考力・判断力を要する設問という本学の特徴は今年も変わらなかった。一つの大問内で次々と設定が変化していくものの設問は誘導的であり、簡潔に論述をまとめられれば高得点も可能である。

できるだけ早い時期に基本・標準問題の学習を仕上げ、重厚長大な大問に対するトレーニングを1題でも多く積みたい。また単なる数式の計算だけではなく、必要な物理量の導入判断、グラフの考察、日本語による理由説明、状況の描図など多角的な学力を養成しておくこと。最終的には、長文の読解力と解答をまとめる表現力が勝負になる。